

# 資料-5

流域の特徴を踏まえた  
流域対策について

- ・淀川水系は、2府4県にわたり、8240km<sup>2</sup>の広域な流域面積を持ち、下記4つの特徴が存在。
- ①流域面積の約半分を占める琵琶湖流域の存在
- ② 3川(木津川、宇治川、桂川) それぞれに、狭窄部が存在
- ③洪水時のピーク流量が2,000~5,000m<sup>3</sup>/s規模の3川(木津川、宇治川、桂川)が同位置にて合流
- ④下流域は、海域に土砂が堆積し形成された低平地(人口、資産が特に集中)

## ○淀川水系の特徴



桂川：保津峡



三川合流部



下流域：大阪市内



琵琶湖

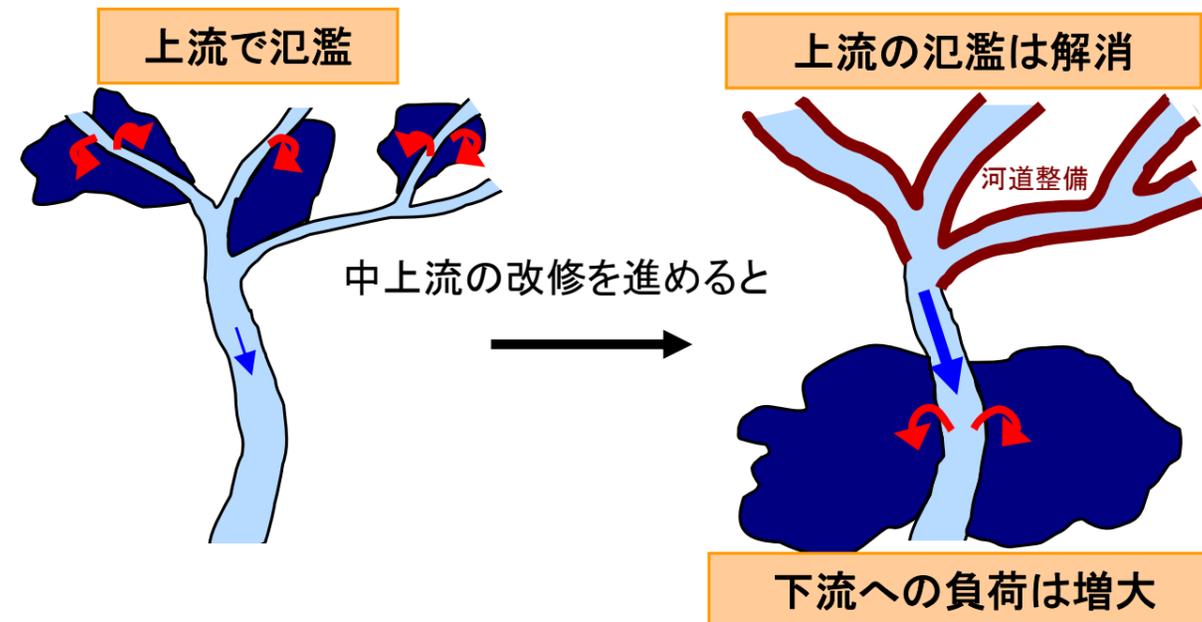


木津川：岩倉峡

- ・淀川水系では、上流域の狭窄部の特性等により、中上流での氾濫が発生。結果として、下流部へ流下する洪水は低減。
- ・平成21年3月に策定した淀川水系河川整備計画では、中上流部の整備により、本来なら氾濫していた水を、人為的に下流の堤防区間へ流下させることから、下流淀川の安全度を下げずに、安全度の低い中上流部の改修を進めることを記載。

## ○河川改修の考え方

上流の安全度向上のため本来なら氾濫していた水を人為的に下流の堤防区間に流下させることから、今後とも下流部においては上流部以上の安全度を確保。



## ○河川整備計画における上下流バランス

中上流部の河川改修を進めつつ、上下流バランスの観点から以下を実施。

- ・下流部の流下能力増強となる阪神なんば線の架け替え
- ・川上ダム、天ヶ瀬ダム再開発、大戸川ダム等の洪水調節施設の整備

### 【河川整備計画の記載】

淀川本川における現況の安全度を堅持するため、中上流部の改修とあわせて、まずは下流部の流下能力増強につながる橋梁改築を実施し、さらに中上流部のみならず下流流量も低減させる効果を有する、川上ダム、天ヶ瀬ダム再開発、大戸川ダム等の洪水調節施設の整備を行うこととする。これにより洪水調節施設下流の各支川の治水安全度の向上も期待できる。

淀川本川から見た場合

